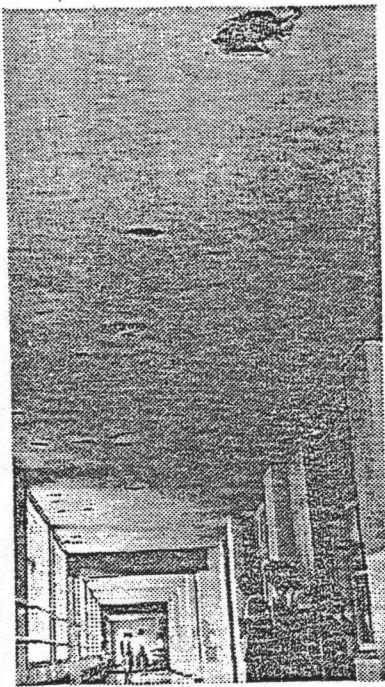


87.7.11  
毎日朝刊

# 石綿が降ってくる!

## 福岡空港近 くの小中3校 天井に穴：改修へ



あちこち穴があいた石綿天井—福岡・吉塚中学校

がんや肺障害を招く石綿(アスベスト)が学校の内装などに使われ問題化し、文部省は全国調査に乗り出した。福岡空港周辺の古い小中学校で、防音に覆れている天井が老朽化して穴があき、ボロボロこぼれ落ちるなど「緊急事態」となっている。これを重視した福岡市教委は夏休みに入り次第、傷み

のひどい博多区内の吉塚中、東光中、千代小学校の石綿天井撤去作業を急ぐことを決めた。同市内の石綿天井を撤してある十三小中学校のうち、特に老朽化して傷みがひどい三校について国の大規模改修事業の指定を受け、夏休みから撤去、改修工事を行うことになった。残りも来年度から順次取りかかりたいとしている。

最も傷みがひどい吉塚中(緒方副校長、五百八十人)は鉄筋コンクリート三階建てで、二十八年に建設された。一、三階の天井に厚さ一センチの石綿が吹きつけられているが非常に厚く、一昨年から生徒のいたすところから生徒のいたすところも手伝ってポツポツと穴があき出した。他の二校も同様の状態だといふ。

吉塚中は石綿と吸音効果が変わらない有孔ボードに、現在は騒音対象区外になっている二校は美装石膏ボードに切り替える。費用は全部で三億五千万円。同市教委は「空港周辺の学校は鉄筋化された時期が早く、現在ちょうど建て替え期に来ている。石綿の危険性が叫ばれており、早く補修することにした」と話している。

石綿は直径0.02〜0.25(一歩は一ミリの千分の一)の繊維で、吸い込むと肺に刺さる。米国の調査では、石綿工場従業員が肺がんにかかる率は一般人の約五十倍、悪性がんの中皮腫(しゅ)になる可能性も高いという。国内では発がん性は四十年代後半に認められるようになり、五十年から事実上危険性が高いとして新たな石綿の吹きつけ工事は禁止されている。